

ナッシュの家とニュープレース跡  
A Guide to Nash's House and the Site of the New Place

家と跡地について

この家の所有者で法律家、ワイン商人でもあったトーマス・ナッシュは 1626 年にウィリアム・シェークスピアの孫娘、エリザベス・ホールと結婚しました。隣に立つのはニュープレースと呼ばれる大きな家で、シェークスピアが家族のために 1597 年に購入し 1616 年にこの世を去るまで暮らしたところです。

居間と台所

まず、居間からツアーをはじめてはいかがでしょうか。この部屋は 17 世紀の裕福な家庭の典型的な調度が施されています。夫婦の肖像画の主は、トーマス・ナッシュと妻エリザベスだと言い伝えられています。美しい木彫の食卓と食器棚の 2 点には、シェークスピアの時代の最高級の家具工芸技術を見ることができます。また、1600 年ごろのタペストリーを使ったクッションカバー 2 点にもご注目ください。

奥の台所は後に増設されたもので、19 世紀の品々が飾られています。

玄関ホール

玄関ホールに戻ると、ここにも貴重な家具を見ることができます。引き出し付きの戸棚は 1594 年にストラトフォードの町役場のために作られたものです。暖炉のそばには 17 世紀中頃の時計と、1616 年にマーカス・ゲーハーツの弟子によって描かれたジョイス・クロプトンの肖像画があります。実は、このニューハウスを建てたのがジョイス・クロプトンの先祖に当たるヒュー・クロプトンなのです。

階段の後ろには 1680 年頃ドイツで作られた鉄製の筆筒が置かれています。

## 2階の部屋

階段を上る途中にある見事な絵はウィリアム・ドブソンによる 1670 年代にこのニュープレースの所有者だったエドワード・ウォーカー卿の肖像画です。

2 階は博物館になっていて、有史以前、ローマ帝国時代、アングロサクソン時代の品々が展示されています。特にサクソンの装飾品に注目ください。

手前の部屋に展示されているのは町の歴史の後半期に関連した品々で、近隣のギルドチャペルに置かれていた、15 世紀の天使の彫刻の数々や、俳優デビッド・ガリックの呼びかけで 1769 年にストラトフォードで第 1 回のシェークスピア・フェスティバルが行われたときの記念品などが置かれています。

## ニュープレース跡

玄関ホールより外に出て、ニュープレース跡に向かいましょう。ここにあった家は 1759 年にフランシス・ガストレルによって撤去されてしまいました。ガストレルはその以前にも、庭にシェークスピアが植えて育てていた有名な桑の木を切り取っています。

ニュープレース跡を出るとエリザベス一世時代の様式の庭園、ノットガーデンです。ミニ灌木や、さまざまな薬草と花が植えられています。

## グレート・ガーデン

回転式出口の先のグレートガーデンもシェークスピアの領地の一部です。この芝生に生えている桑の木は、ウィリアム・シェークスピアが苗を植えたのだと伝えられています。

シェークスピアの作品をテーマにした銅像はアメリカ人彫刻家グレッグ・ワイアットの作品です。

楽しんでいただけたでしょうか。

お帰りの際は、この案内書を受付かスタッフにお渡しください。